

病害名：キュウリ黄化病

病原ウイルス：ビートシュードイエロースウイルス(*Beet pseudo yellows virus*; BPYV)

病原異名(旧名): キュウリ黄化ウイルス (*Cucumber yellows clostero virus*; CuYV)



葉の黄化症状



全身症状

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・はじめ葉脈間に無数の黄緑色の小斑点を生じ、進行すると葉脈を残して黄化する。
- ・病徴が進行すると、葉縁が下方に巻き込み硬化してくる。
- ・症状が株全体に及ぶと、側枝の発生が悪くなり、草勢の低下により減収や曲がり果の原因となる。

2 伝染源及び伝染方法

- ・本病は BPYV を保毒したオンシツコナジラミによって媒介される。
- ・感染植物を吸汁することによりウイルスを保毒し、5～6日間ウイルスを伝搬する。(半永続伝搬)
- ・経卵伝染、種子伝染、土壌伝染、汁液伝染はしないと考えられる。

3 発病・伝染好適条件

- ・オンシツコナジラミによって媒介されるため、増殖に好適である23～28℃で発生が多くなる。

4 防除方法

- ・本ウイルスの媒介虫であるオンシツコナジラミの防除を徹底する。
- ・罹病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、土中深く埋めるなど適切に処分する。
- ・ほ場内外の雑草は BPYV の宿主となるため、除草を行い、環境整備に努める。
- ・施設開口部を寒冷紗や防虫ネットで被覆し、オンシツコナジラミの侵入を防ぐ。
- ・栽培終了後は施設を密閉し、オンシツコナジラミを死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

5 その他

- ・本県においてキュウリ黄化病は2005年に確認された。それ以前から同様の症状が認められていたが、ウイルスの検出が困難であったため同定には至っていなかった。

6 出典

- (1)参考文献：日本植物病害大事典(全国農村教育協会)
原色 野菜 病害虫百科2(農山漁村文化協会)
- (2)写真：宮城県病害虫防除所撮影